

巻頭言「健康寿命」	1
市民公開講座報告	
3月8日(日)開催	2-3
「がん検診といのちを考えるー胃がんを中心にー」	
平成27年度健康公開講座のご案内	3
デジタル式乳房X線撮影装置の導入	4
看護局ブログ紹介	4
中央検査室の検査機器と検査システムが 新しくなりました!!!	5
テレビ健康講座	5
新任部長からごあいさつ	6
こんにちは 図書室の山本佳子です	7
新任医師、退職者の紹介	7-8
編集後記	8
<おしらせ>	1枚

巻頭言 健康寿命

世界保健機関(WHO)が2014年5月に発表した統計によると、2012年の日本人の平均寿命は84歳で前年に引き続き世界最長。女性は87歳で第1位、男性は80歳で第8位で、平均寿命は今後も延びることが予測されています。長寿社会の到来は本来的には喜ぶべきことです。

団塊の世代全員が後期高齢者となる2025年には、2200万人、5人に1人が75歳という超高齢化社会が到来します。医療・介護の2025年問題です。この時、医療・介護費用の増大、人的資源の不足、施設の不足と偏在など、いまから多くの問題が指摘されています。

そこで、「健康寿命」の観点から2025年問題を評価する必要があります。健康寿命とは、健康上の問題がない状態で日常生活を送れる期間のことです。統計の取り方で多少変動しますが、平均寿命から健康寿命を引くと、男性は約9年、女性は約12年とされています。つまり、人生の1割以上は程度の差こそあれ、医療や介護を必要とした生活を送ることになります。しかも、男女とも約3年間の地域差があります。例え

ば、2010年では男性最長は愛知県71.7歳、最短は青森県68.9歳。因みに鳥取県は70.0歳で第31位でした。

健康寿命を延ばすことで、医療や介護の需要を減少させることができます。2025年問題の解決にも繋がります。

鳥取県立厚生病院の守備範囲である中部医療圏では、予測されている2025年の高齢化率30%にすでに達しており、今現在、提供されている医療は、2025年の医療を反映している、と断言していいのです。

鳥取県立厚生病院は中部医療圏で唯一の公的病院として、診療密度の高い急性期医療を展開して、安心・安全な医療を提供します。加えて、テレビ健康講座や健康公開講座(旧 市民公開講座)、さらには地域への出前健康講座などに積極的に取り組み、県民の健康を支える原動力になるべく、日々、研鑽を重ねております。県民の皆様のご理解とご支援を衷心よりお願い申し上げます。

院長 井藤 久雄

市民公開講座開催報告

3月8日（日）開催 「がん検診といのちを考える-胃がんを中心に-」

検診の大切さについて考えていただきたいと市民公開講座を開催しました。

シンポジウムでは、中部地区での胃がん検診受診率向上に向けた取組みについてそれぞれの立場からお話いただきました。

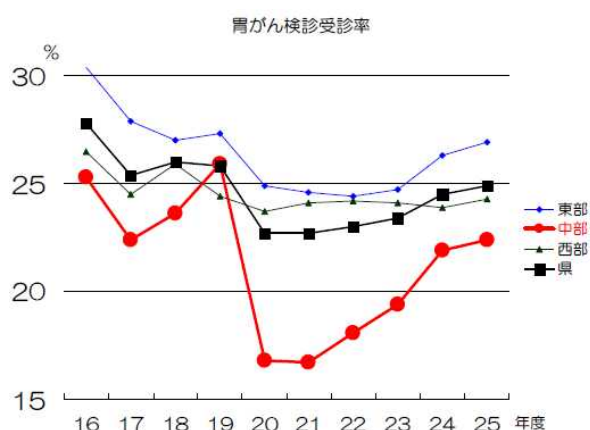
○医療局 秋藤洋一局長

－中部地区胃がん検診の現状－

鳥取県はがんで亡くなる方が多く、なかでも中部の胃がんについては罹患率はそこまで高くはありませんが死亡率が高く、受診率（特に内視鏡）が低い状況です。

胃がんの発見率はX線より内視鏡が高く、昨年初めて国が内視鏡検診の死亡率減少効果を認めました。がんの発見が検診か外来かで5年生存率が大きく変わるため、症状がないうちに検診で見つけることがとても大切です。

検診は義務ではなく権利。みなさんに検診を受けて欲しいと思います。



○消化器内科 野口直哉部長

－胃がんとは－

がんができるのは、身体のなかにある正常

な細胞がなんらかの原因で突然変異してがん化し、増殖して徐々に大きくなり、まわりの細胞を壊したり転移したりするためです。

腹痛などの症状が出てから見つかるがんは、進行していることが多く、治療で治る胃がんを見つけるためには検診を受けていただくことが重要になります。

ですが、検診を受診される方は低迷しています。

早期の胃がん発見には内視鏡検査がとても有効です。検査は短時間で済みます。40歳を過ぎたら1～2年に一度は胃がん検診をぜひ受けてください。

シンポジウム

「胃がん検診受診率向上を目指して」

○鳥取県中部総合事務所福祉保健局

吉田良平副局長

中部では胃がん死亡率が高く、その背景として、胃がん検診受診率が低いため、早期がんで発見される割合が少なく、進行がんになってから発見されることが多いということがあります。

対策として、中部弁を活用したマスメディアによる啓発、啓発用DVDの作成、市町村と合同での街頭キャンペーンや健康教育の推進、かかりつけ医からの受診勧奨、企業への働きかけなどを3年間行い、その結果、胃がん検診受診率の向上がみられました。

今後とも、地域の方々とともに、受診率向上に努めたいと思います。

○北谷地区自治公民館協議会会長

笠見 猛 氏

倉吉市自治公民館連合会では平成26年度、検診の受診率向上を重要課題と捉え、県外の先進地視察を行いました。これを踏まえて市内全13校区ごとで検診受診の現状を把握し要望をとりまとめ、倉吉市長、部長との意見交換を行いました。

先進地では、住民主体の取組みを行政が支えるという構図になっています。住民の意識が行政を動かしていくという実例です。

私の地元である北谷地区でも行政無縁での呼びかけや専用回覧板の作成など、手を変え品を変え、住民が主体となった取組みを行っています。

まずは、住民主体で物事を進めるということに力を注がねばなりません。今後、行政側と十分に意思疎通を図り、住民が参加していくことを定着させたいと考えています。



○鳥取県青少年育成アドバイザー協議会会長

山本 邦彦（法名 邦道）氏

集団検診の結果、精密検査が必要と言われ、内視鏡検査を受け胃がん宣告。このとき心に浮かんだのが「がんと聞き 色即是空と我に云い」。すぐに入院・手術。

悩んで、考えて良くなるならそうしても良いが、悩めばかえって悪くなる。

私は胃がんで手術したことを、周りの人に言うことにしています。ふたりにひとりが何らかのがんになると言われる現在、もっとオープンにして、互いに理解しあい、支え合う社会をつくるのが大切だと思うからです。それが命を大切にすることにつながり、検診を受ける人を増やすことにもつながると思います。

誰もががんににはなりたくないと思いつつ、調子が悪いところはない、だから検診も受けない。本当にそれで良いのでしょうか？

自覚症状が生じたときは既に相当に進行しており、手術をしても転移が心配であったり、抗がん剤治療が必要となったり、余命も短くなってしまいます。特に胃がんは早期発見で完治する率が非常に高くなります。

私は早期発見できて日々の命の大切さを実感し、感謝しています。

平成27年度健康公開講座のご案内

地域がん診療連携拠点病院である当院では、5大がん（肺がん、胃がん、肝臓がん、大腸がん、乳がん）を中心としたがんの予防や早期発見、診断治療に関する公開講座を平成22年度から毎年開催しています。

平成27年度は、次のとおり市民公開講座から健康公開講座に名称を変更し、開催を予定しています。多くの皆様の来場をお待ちしております。

いずれも会場は倉吉交流プラザ、入場は無料です。

◇第1回 6月21日(日) 『がんの予防』

◇第2回 9月13日(日) ◇第3回 3月6日(日)(予定)

デジタル式乳房X線撮影装置の導入

平成27年2月、乳房X線撮影装置(通称:マンモグラフィ)を更新しました。従来の装置は平成17年に導入されたアナログ式で、撮影後はフィルムで診断しておりましたが、今回の機種は乳がん検診に対応したデジタル式乳房X線撮影装置です。

この装置は高性能な平面検出器を搭載し、撮影後は専用の画像モニターで乳房内を微細かつ鮮明に写し出すことができます。

このことは病変部、特に乳がんの早期発見に威力を発揮できると考えます。また、装置の更新にあたり専用の撮影室とし、床や壁材等に女性の意見を多数取り入れリラックスして検査を受けていただけるよう環境も整備しました。

当院では、マンモグラフィ検診撮影認定診療放射線技師が確かな技術をもって対応します。

安心・健康な生活のためにぜひ検診を受診してください。

中央放射線室長 森里 昭典



看護局ブログ紹介



▲入職時研修

▼コミュニケーション研修



※厚生病院のウェブサイトから
各診療科・部門>看護局>看護局日記
と項目を選択してご覧ください。

厚生病院を身近に感じ、看護局の取り組みを知っていただきたいと考え、平成26年4月から厚生病院ウェブサイトのなかにブログ形式の「看護局日記」の掲載を始めました。

4月の新人看護師の入職時研修の風景から始まり、当院の看護師が日々研鑽に励む姿や、当院で季節ごとに開催しているイベントの様子などを紹介しています。

病院見学に来ていただいた看護学生や看護師の方から「読みましたよ」「この組織と一緒に働きたいと思いました」と声を掛けていただくこともあり、励みになります。

これからもいろいろな取り組みをお届けいたします。

看護局長 戸田 芳美

中央検査室の検査機器と検査システムが新しくなりました！！！！

皆さん、厚生病院の中にある中央検査室をご存じですか？

中央検査室では、臨床検査技師という国家資格を持った技師が、医師の指示のもと患者様の血液検査などを実施しています。

今から30年以上も前には、試験管などを使用して長い時間をかけないと検査結果が出ま



せんでしたが、時代とともに中央検査室においても自動化が進み、高性能な検査機器が導入されるようになりました。この結果、検査の精度とスピードが向上し、検査結果の早期報告につながっていきました。

中央検査室は、8年ぶりに検査機器と検査システムを更新し、半定量で測定していた検査項目の定量化の実現、異常値の自動再検査、検査機器のトラブル回避など様々な効果が期待されます。

今後は、新しい検査機器や検査システムのメリットを活かし、今まで以上に患者様のお役に立てるよう取り組んでまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

中央検査室長 松ノ谷 眞智子

テレビ健康講座

鳥取県立厚生病院では、平成27年1月からケーブルテレビ(TCC)において、テレビ健康講座を行っています。

鳥取県中部地区の住民の皆様、病気についての理解を深めていただき、さらに予防について取り組んでいただくことを目的としています。

講座内容は月変わりとなっていて、内科、

【テレビ健康講座「健やか見聞録」】

- 第1回：インフルエンザ
- 第2回：肺がん
- 第3回：不妊治療
- 第4回：くも膜下出血
- 第5回：肝炎

外科、脳神経内科外科、婦人科、小児科、耳鼻科、整形外科などの一般的、代表的な疾患について、厚生病院で診療している医師が質問形式でわかりやすく説明します。

ぜひテレビを視聴していただき、疑問に思うことや当てはまることがあれば、厚生病院へ相談または受診してください。

【相談窓口】

鳥取県立厚生病院内 地域連携センター
電話：0858-22-8181(代表)

※放送済みの講座については、厚生病院のウェブサイトでご覧いただけます。

中央手術センター長 吹野 俊介

新任部長からごあいさつ

脳神経小児科部長 杉浦 千登勢



4月1日付けで脳神経小児科部長を拝命しました。

脳神経小児科が担当する疾患は、脳性麻痺、知的障がい、重症心身障がい児(者)やてんかんに加え、発達障がいの割合が急激に増加しています。

脳神経小児科に関わる疾患は、生涯を通じて対応が必要なケースがほとんどであり、医学モデルに加えて生活モデルでの対応も重要になります。医学モデルでの対応と生活モデルでの対応はどちらも重要であり、その優先順位はライフステージで変化する病態や状態像に伴って刻々と変化します。

厚生病院では、急性期病態や外科的治療を要する状態など主に障がいに対する医療的対応へのニーズが高いです。一方、近隣にある県立中部療育園では、生活モデルの中で地域と連携しながら残っている機能を活かしてQOLを高める療育的対応へのニーズが高いです。現在、医療と療育の連携ならびに小児から成人への移行期医療は大きな課題となっています。

厚生病院の先生方やスタッフの方々と密な連携をとりながら、中部圏域の療育体制・重症心身障がい児(者)の支援体制作りにも少しでも貢献できればと考えています。よろしく願いいたします。

薬剤部長 道上 隆文



この度、薬剤部長を拝命しました道上です。

薬剤部の主な業務として、調剤業務の他に、抗がん剤混注業務、薬剤管理指導(服薬指導)業務、在庫管理業務や宿日直対応等があります。

薬剤管理指導件数は、薬剤師数不足の影響もあり、まだまだ少ないですが、昨年度は対前年度を上回ることが出来ました。本年度は更に上積みを行い、今後の「病棟薬剤業務実施加算」開始につなげていきたいと考えています。

また、昨年度からDPC機能評価係数Ⅱに「後発医薬品係数」が加わり、当院でも後発医薬品への切替えを進めていますが、皆様の御協力により大きな混乱も無く行うことが出来感謝しております。

今後も安全な医薬品提供等と病院経営への貢献が行えるよう努めて参りますのでよろしく御願いたします。

こんにちは 図書室の山本佳子です

平成27年2月から司書として勤務しています山本佳子です。

病院図書室には、スタッフへの医療情報の



提供と、患者さまへの読書支援という二つの役割があります。

文献検索の依頼や専門分野の調べ物など、日々求められる情報はさまざまあり、私自身、医療についての知識をより深めていく必要性を感じています。

患者さまの不安を少しでも和らげ、心に寄り添うような本との出会いの場にしていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

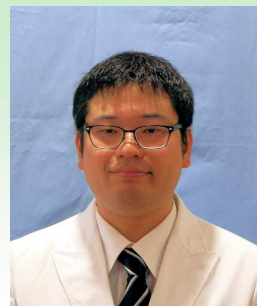
新任医師紹介

(平成27年4月1日採用)

4月、多くの新メンバーを迎え
新たなスタートを切りました。

産婦人科

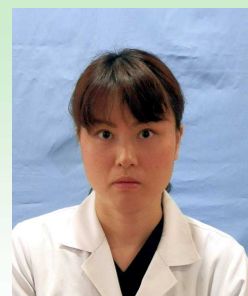
村上 二郎(専攻医)



【ひとこと】
初期研修を終えて、厚生病院で働くことになりました。至らぬ点も多く、未熟な私ではありますが、患者さんのために少しでもよい医療が提供できるような日々精進していきますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

消化器内科

前 ゆかり(専攻医)



【ひとこと】
初期臨床研修を終え、厚生病院で勤務することとなりました。医師としての経験はまだまだ浅く、皆様にご迷惑をおかけすることも多いとは思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

呼吸器内科

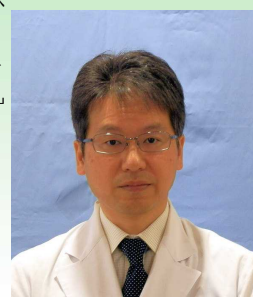
北谷 新(医師)



【ひとこと】
自治医科大学を卒業し、厚生病院での初期臨床研修後、鳥取県内の自治体病院派遣で内科勤務を七年してきました。少しでもお役に立てるよう頑張りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

消化器外科

木島 寿久(医長)



【ひとこと】
この春から厚生病院でお世話になります。出身は松江市です。兵庫県の病院から十三年ぶりに山陰・倉吉に帰って来ました。早く職場に慣れて皆様のお役に立てるよう努力します。

産婦人科

下雅意 るり(医師)

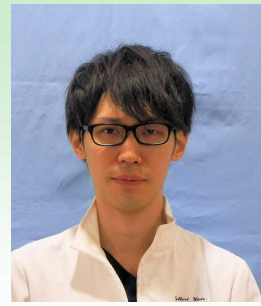


【ひとこと】
今回で三回目の厚生病院赴任となるため、強い縁を感じています。しばらく現場を離れていたので一から勉強し直しますが、その間、自身の出産など貴重な経験をしましたので、これを生かし、日々の診療に役立てたいと思っています。

新任医師紹介（平成27年4月1日採用）

消化器外科

たにお あきみつ
谷尾 彬充（専攻医）



「ひとこと」
医師としてまだまだ経験が浅く皆様に迷惑をかけることも多いかと思えます。この厚生病院で可能な限り多くのものを吸収して、少しでもお役に立てるよう精進して参りますので宜しくお願い致します。

脳神経外科

うの てつじ
宇野 哲史（医長）



「ひとこと」
中部での勤務は初めてで緊張しています。鳥根県出身ですが、鳥取県民の歴史の方が長くなってきました。今後さらに真の鳥取県民に近づけるよう、できる事を少しずつ積み上げていき、中部地区の医療に貢献できたらと考えています。

産婦人科

うえがき たかし
上垣 崇（副医長）



「ひとこと」
五年ぶりに帰って参りました。皆様のお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いたします。

放射線科

かわい つよし
河合 剛（医長）

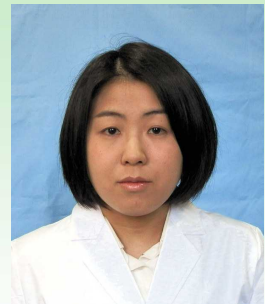


「ひとこと」
鳥取大学医学部附属病院での勤務を経て、四年ぶりに厚生病院にお世話になることとなりました。Interventional Radiologyを専門としています。が、画像診断、放射線治療とともに、はばひろくやっつけていこうと思えますので、よろしくお願いたします。

（平成27年1月18日採用）

小児科

とももり
友森 あや（専攻医）



「ひとこと」
鳥取大学小児科入局後、津山中央病院での勤務を経て、一月から厚生病院で働くこととなりました。未熟な所も多く、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願申し上げます。

退職者

医師

小児科

上榎 仁志（一月十七日付）

脳神経外科

谷浦 晴二郎（三月末付）

小児科

松村 渉（三月末付）

消化器外科

谷口 健次郎（三月末付）

消化器外科

村上 裕樹（三月末付）

消化器内科

井山 拓治（三月末付）

お世話になりました

編集後記

先日、八屋にある極楽寺のしだれ桜を見てきました。

倉吉に勤務するようになって6年目の春になりますが、初めて満開の時期に見に行くことができました。仕事を終えてから行ったので夜桜でしたが、ライトアップされており、140年という樹齢ながら夜空から流れおちるような華麗な姿に感心いたしました。その翌日は強い雨風で荒れた天候になり、随分散ってしまったようです。

私なんぞは「見ごろ」よりも「食べごろ」の方に意識がいきますが、その時季その時季の「旬」を目でも舌でも楽しみたいものです。
(永原天和)

編集 鳥取県立厚生病院 院内広報委員会
発行 鳥取県立厚生病院
〒682-0804 鳥取県倉吉市東昭和町150番地
電話 0858-22-8181(代) ファクシミリ 0858-22-1350

厚生病院のホームページも、ぜひご利用ください。
パソコン、スマートフォンからご覧いただけます。
<http://www.pref.tottori.lg.jp/kouseibyouin/>



「第29回中国・四国ストーマリハビリテーション研究会」を開催します

「第29回中国・四国ストーマリハビリテーション研究会」を、平成27年7月4日(土)に米子コンベンションセンターで開催します。

この研究会では、ストーマリハビリテーションのみならず、褥瘡や、治療に伴う皮膚障害、排泄障害など多領域におよぶ議題に関して、多職種の方々に参加していただけるものとなっています。

今回は医療法人社団廣仁会褥瘡・創傷治療研究所、豊水総合メディカルクリニック等で勤務されている安部正敏先生を特別講演にお招きしています。この分野では非常にご高名な先生ですが、とてもおもしろいご講演をされるのも評判です。

また、教育講演は愛媛大学医学部附属病院総合診療サポートセンターの杉本はるみ先生にがん化学療法や放射線療法を受ける患者のスキンケアについて講演いただきます。

この分野で第一線でご活躍中のお二方を招き、実りある研究会にしたいと考えています。



演題登録期間 平成27年 2月26日(木)～4月14日(火)

事前参加登録 平成27年 2月26日(木)～5月29日(金)

会期 平成27年 7月4日(土)

会場 米子コンベンションセンター ビッグシップ
〒683-0043 鳥取県米子市米丘町294
TEL 0859-35-8111 FAX 0859-39-0700

会長 西江 浩
鳥取県立厚生病院 消化器外科 部長

事務局 | 鳥取県立厚生病院 消化器外科 〒682-0804 鳥取県倉吉市東昭和町150 TEL:0858-22-8181 FAX:0858-22-1350

<http://cssr2015.jimdo.com/>

多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

第29回中国・四国

ストーマリハビリテーション研究会

会長 西江 浩(消化器外科部長)

出前健康講座～募集しています～

厚生病院では、地域の皆様への安心の提供と早期治療への取組みとして、出前健康講座を行っています。

医師の話を直接聞き、健康の維持と早期受診による早期回復につなげていただきたいと思います。

各自治体又は自治公民館等の単位は問いませんので、遠慮なくお申し込みください。

- 講座はベテラン医師と関連スタッフが担当します
- 講座の内容、開催日時はお相談ください
- 会場は各実施主体でご準備ください
- 講師への謝金は不要ですが、交通費のみご準備ください

【お申込み・相談先】 厚生病院 医療局長 秋藤 ・ 事務局長 飯田

電話:0858-22-8181(代表) FAX:0858-22-1350